

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 千早赤阪村立赤阪小学校 中上 綾音

研究主題

「意図を深く汲み取りながら思考し判断し表現する力を養い
粘り強くチャレンジし続ける態度の育成」

※今年度の重点目標に_____を引いています。

1. 学年・組 千早赤阪村立赤阪小学校 第5学年1組（9名）

2. 単元名 みんな集まれ！小さな生き物タウン～ビオトープで村の生態系を守ろう～

3. 単元の目標

ビオトープ作りの活動に向けて、村の自然や生物にとって住みやすい環境への理解を深め、主体的・協働的に考え、ビオトープ作りに活かすとともに、村の自然を守るために自分たちができることを考え、生活の中で実践しようとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生物の暮らしとビオトープの役割について理解している。 ②調査・ビオトープ作りの活動を、目的や状況に応じて実施している。 ③環境と生物の共存についての理解は、自らの探究的な学習の成果であることに気付いている。	①村の自然環境への関わりを通して感じた関心をもとに課題をつくる。 ②生物が暮らしやすい環境づくりに必要な情報を、手段を選択して収集している。 ③ビオトープ作りに向けて、集めた情報を整理し、よりよいものにするために考えている。 ④ビオトープ作りについて、目標に応じて、分かりやすく表現している。	①ビオトープ作りを通して、自分と違う友だちの考えを活かしながら、ビオトープ作りに粘り強く取り組もうとしている。 ②ビオトープ作りの中で多様な人々との繋がりや様々な意見を尊重し、互いのよさを活かしながら協働して学び合おうとしている。 ③村の自然を守るために自分たちができることを考え、生活の中で実践しようとしている

5. 単元設定の理由

本村で暮らす児童は豊かな自然に囲まれながら生活しており、大切な故郷である村の自然を守っていききたいという思いを強くもっている。環境を守っていくために自分たちにできることは何かと意見を出させたところ、身近なトンボやメダカを始めとした様々な生物の居場所になるビオトープを校内に設置したいという意見が出た。この教材はビオトープの作り方についてインターネットで調べたり、詳しい人に聞いてみたりするだけでなく、自身の経験をもとにビオトープ作りのアイデアを出し合いながら探究を進めることができると考えている。そして、このビオトープ作りは何度も話し合ったり試行錯誤したりしながら主体的に課題に向き合うことのできる教材として適している。また、「村の環境保全につながるか」「自然に還すことができるのか」という2つのコンセプトを中心に据え、児童が多角的に課題に向き合うことができる教材でもある。こ

の教材に対し、児童には地域の現状について意見を出し合ったり、本やインターネットで調べたり、人にインタビューしたりすることで情報の収集・取捨選択を繰り返し行なわせたい。それから、村役場の環境農林課の職員の方からお話を伺ったり、ビオトープ作りをされている地域の方との交流をしたりすることも取り入れてきたが、教えてもらったことをそのまま実践してみるだけでなく、児童ならではの自由な発想・独自性を大切にしたい。

考えたことをビオトープとして形にすることで、他学年の児童とも交流し、作って終わりにならないものを目指したい。そして、自分たちが暮らす村の豊かな自然を守り、生物が暮らす環境を整え、学校内だけでなく、保護者や地域の方々にも思いが広がっていくように活動させたい。

6. 学習の流れ

各学年に年間計画を掲示していますのでそちらをご覧ください。

7. 本時の展開

(1) 本時の目標

ビオトープ作りの途中経過の振り返りを活かし、多様な人々との繋がりや様々な意見を尊重し、互いのよさを活かしながら協働して学び合おうとしている。【主体】②

(2) 本時の評価規準と想定される児童の姿

十分満足できる姿	おおむね満足できる姿	支援が必要な姿と支援法
コンセプトをもとに、より良いビオトープを作るために、振り返りを活かし、多様な意見を尊重し、友だちと協働して作業に取り組んでいる。	コンセプトをもとに、よりよいビオトープをつくることを理解し、友だちと関わり合って作業に取り組んでいる。	コンセプトを意識できるような声かけを行い、すでにできていること・まだ足りないこと、作業内容を友だちや先生と考え、作業できるようにする。

(3) SE のテーマを意識した本時の目指す子ども像

自分たちで決めたより良いビオトープ作りの目標に向かい、協働して作業することに粘り強くチャレンジする児童を目指す。

(4) 展開 (52/70 時間)

時間	学習活動 (○) 研究主題に関わる場面 (◎)	教師の支援 (○) 評価規準及び評価方法 (☆) →その手立て (※)
つかむ8分	○前時を振り返る。 ○本時のめあてを確認する。	○前時の活動を振り返り、より良いビオトープとはどんなものを意識しながら作業できるように声かけをする。
深める30分 いかす7分	【めあて】 もっとすてきなビオトープにするために話し合いながら協力して、みんなで根気強く作業しよう。	
	○コンセプト・作業内容を共有し、作業を進める。	○全員がめあてをもって活動に参加できるように、役割分担や道具の確認のフォローをする。
	◎中間振り返りを行い、作業をする中で気付いたこと・新たな作業を確かめる。	○よい関わりができたことの発言を聞き、教員が見ためあてに則した姿を共有することで、児童が後半の活動で目標とすべき姿を確認できる時間にする。
	○作業を行う。	※より良いビオトープ作りを目指し根気強く取り組むために、教員から懸念点やアイデアを伝え、話し合いのきっかけづくりをする。 ☆ビオトープ作りの中で友だちとの繋がりや様々な意見を尊重し、互いのよさを活かしながら協働して学び合おうとしている。 【主体】②（発言・行動観察）
	○次時について考え、振り返りを行う。 ○安全に気をつけて片付けをする。	○今後の作業の見通しを持てるように、活動を振り返らせる。